

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分
 【発行日】平成20年4月17日 (2008.4.17)

【公開番号】特開2001-317050(P2001-317050A)
 【公開日】平成13年11月16日 (2001.11.16)
 【出願番号】特願2001-47799(P2001-47799)
 【国際特許分類】

E 0 2 D 5/56 (2006.01)

E 0 2 D 5/46 (2006.01)

【 F I 】

E 0 2 D 5/56

E 0 2 D 5/46

【手続補正書】

【提出日】平成20年2月13日 (2008.2.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

最下端部にらせん状羽根を有し、杭頭部近傍にらせん状羽根を有するらせん状羽根付鋼管杭を、地盤中に造成されるソイルセメント柱体に挿入して形成することを特徴とするソイルセメント合成杭の造成方法。

【請求項 2】

前記らせん状羽根付鋼管杭は、中間部に前記らせん状羽根を有することを特徴とする請求項 1 に記載したソイルセメント合成杭の造成方法。

【請求項 3】

前記らせん状羽根付鋼管杭本体の直径を d とし、前記らせん状羽根の直径を D とし、前記ソイルセメント柱体の直径を D c としたとき、前記らせん状羽根の直径 D の範囲が前記らせん状羽根付鋼管杭本体の直径 d の 1 . 5 倍乃至 3 . 0 倍であり、ソイルセメント柱体の直径 D c の範囲が前記らせん状羽根の直径 D の 1 . 2 倍乃至 2 . 5 倍であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載したソイルセメント合成杭の造成方法。

【請求項 4】

前記らせん状羽根付鋼管杭本体の中空部にセメントミルク又はモルタル或いはコンクリートを充填することを特徴とする請求項 1 乃至 3 の何れかに記載したソイルセメント合成杭の造成方法。

【請求項 5】

前記らせん状羽根付鋼管杭の前記杭頭部外周のソイルセメント中に補強鉄筋籠を有することを特徴とする請求項 1 乃至 4 の何れかに記載したソイルセメント合成杭の造成方法。

【請求項 6】

前記らせん状羽根付鋼管杭の前記杭頭部近傍の前記らせん状羽根の間に、補強鉄筋を軸方向に配置したことを特徴とする請求項 1 乃至 5 の何れかに記載したソイルセメント合成杭の造成方法。

【請求項 7】

前記らせん状羽根付鋼管杭の前記杭頭部近傍のソイルセメント柱体の直径を、その他の部分の直径よりも拡大したことを特徴とする請求項 1 乃至 6 の何れかに記載したソイルセメント合成杭の造成方法。

【請求項 8】

前記らせん状羽根付鋼管杭のソイルセメント柱体への貫入速度を V_p (m/分)、前記らせん状羽根付鋼管杭のねじり込み時の回転数を R_p (回/分)、前記らせん状羽根のらせんピッチを t_p (m) としたとき、 V_p の値を $R_p \times t_p$ の値に概略等しくすることを特徴とする請求項 1 乃至 7 の何れかに記載したソイルセメント合成杭の造成方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

【課題を解決するための手段】

本発明に係るソイルセメント合成杭の造成方法は、最下端部にらせん状羽根を有し、杭頭部近傍にらせん状羽根を有するらせん状羽根付鋼管杭を、地盤中に造成されるソイルセメント柱体に挿入して形成することを特徴とするものである。また、前記らせん状羽根付鋼管杭は、中間部に前記らせん状羽根を有することを特徴とするものである。